

県史談会 平成31年3月10日(日) 史跡めぐり

横浜貿易新報社・県下名勝史跡45佳撰当選記念碑

「峯の灸」(3位 239,345 票)と

「金蔵院安産子育観音」(36位 39,270 票)を訪ねる

【担当】荻田 豊(携帯:090-5412-7190)

【見学箇所と参考資料など】

1. 旧杉田劇場跡(史跡揭示板より転記) 国道16号線JR根岸線高架下
横浜中心部が焼け野原だった昭和21年の元旦、この場所に「杉田劇場」がオープンしました。昭和町の日本飛行機の下請けでプロペラ製作工場を営んでいた高田菊弥氏が工場を改装し、日本飛行機から木材の払い下げを受けて建てたものです。定員320名でロビーには売店、寿司のカウンター、軽食喫茶室などもあり、観客席から裏庭に出るとすぐ海で真下まで波が押し寄せていました。

生活苦に追われる時代でしたが心の糧として盛況で、戦後磯子の文化の発祥地となりました。この年の4月頃、専属の「大高ヨシヲ一座」の幕あいで滝頭の魚屋の長女8歳の美空ひばりが美空一枝の芸名で出演したのが彼女の芸能界へのデビューです。東京歌舞伎もしばしば来演し、昭和23年6月にはGHQの解禁後横浜で初めての「仮名手本忠臣蔵」が上演されました。戦後横浜アマチュア演劇のはしり「劇団葡萄座」も21年11月から前後9回の公演を行い、中でも23年10月磯子在住の神谷量平作「ヴォルガ収容所」は大入り満員で札止めの騒ぎでした。この劇でシベリヤ抑留中の兵士たちが祖国を偲んで歌ったのが「異国の丘」です。これは一躍人気歌謡曲となり日本中で歌われました。

杉田劇場は横浜市内の復興につれわずか4年で閉館に追い込まれました。平成17年2月に「らびすた」の中に誕生した「磯子区民文化センター・杉田劇場」は60年前の人々に親しまれた初代の名が区民によって選ばれたものです。

2. 杉田八幡神社 磯子区杉田 5 - 2 - 1

祭 神：応神天皇（譽田別命・ほんだわけのみこと）

由 緒：

^{てんぎ}天喜 5 年(1057)、源頼義公が陸奥守としてその子源義家公とが勅を奉じて、奥州の安部貞任を討ち、宗任を降し、戦勝を記念して、山城国石清水八幡宮を勧請し、永く源氏の武運長久を祈願しようと、頼義公は相模国由井郷に鶴ヶ岡八幡宮を、義家公は武蔵国杉田郷に当社を勧請されました。その時が康平 6 年(1063) 8 月であるという。

建久 3 年(1192)、右大将源頼朝公より当社に社領を授けられて、久良岐郡の総社と定められたものであるという。その後、延宝 2 年(1674)には、時の領主間宮左衛門尉信広が社殿を再建し、久良岐郡 12 箇村の総社と定められる。

元文 5 年(1740) 9 月、間宮氏が他所に移住するに至り、当社も衰退する。

明治 6 年、村社に列せられる。

『新編相模国風土記稿』によれば、八幡神社のとなりに妙観寺があり、社の別当でしたが、明治初年、神仏分離によって寺は別当職を解かれた。

狛犬一対：市指定有形文化財

阿形 像高49cm 像長70cm 吽形 像高49cm 像長74cm

元禄 5 年(1692)の銘が背に刻まれている

拝殿前に獅子型と山犬型の間のような奇妙な狛犬が一対鎮座しています。この狛犬は獅子型の形体を取らず背中に縞があることから珍しい和様狛犬とされ、横浜市の文化財に指定されています。

源氏の武将は平安時代から犬飼衆を郎党に加えようとしていた形跡があり、源氏が奥州を攻めた前九年の役や後三年の役に縁のあるお社が、山犬型狛犬を神使としている例が複数見られます。このお社も源氏にちなんだ犬飼に縁りがあるものと思われます。

ちなみに、「犬飼」は鷹狩りに使う獵犬を飼育する業の人。また、狛犬の鼻の形が少し変わっているのは、大正時代に杉田相撲団が力比べで

持上げて落としたためだとか。

3. 牛頭山(ごずさん)妙法寺 磯子区杉田 5 - 3 - 15

宗 旨：日蓮宗（もと真言宗）

創建年：文和元年(1352)
ぶんな

開 山：日祐(中山法華経寺 3 世)

開 基：日荷

室町時代以降、間宮家の菩提寺となり、間宮林蔵ほか一族の墓がある。

日蓮宗改宗以前は弘法大師開創の真言宗寺院であったといわれ、奥の院に牛頭天王をまつり、山号を牛頭山とする。開基の日荷上人は、独りで仁王様を担いで身延山に奉納したという伝説から、足腰の守護神として崇拝されている。

なお、牛頭天王は元、インドの祇園精舎の守護神で、悪疫を防ぐ神として、日本では京都祇園の八坂神社などに祀られている。

また、大和武尊が裏山にあった大松(神松)の下で亡き弟橘媛を偲んだという伝説もある。

① かながわの名木百選のビャクシン(イブキ)

山門前の古木は、樹齢約600年と推定される。

② 間宮林蔵 安永 9 年(1780)～弘化元年(1844)

江戸時代の探検家。名は倫宗。常陸の人。伊能忠敬に測量を学び、寛政12年(1800)幕府の蝦夷地御用雇となり、各地を測量。享和 3 年(1803)西蝦夷を探検、文化 5 年(1808)幕命により松田伝十郎とともに樺太を探検、さらに単身海峡を渡り、黒竜江をさかのぼった。樺太が離島であることを明らかにし、その海峡を間宮海峡と命名。シーボルトの地図海外持ち出し事件の告発者といわれ、晩年は幕府隠密となった。

③ 杉田の梅林

このあたり一帯は地質が穀類や蔬菜類には適さないので、天正年間(1573～1592)領主間宮信繁が梅樹の植付けを奨励し、その果実を売らせて生活の一助とさせました。梅樹は土地に合い繁茂し、元禄(1688～

1704)の頃には3万余株となり、寛政～享和(1789～1804)の頃には近隣の森・根岸・滝頭・富岡の村々も梅樹を植えたと伝えられています。

明和～安永(1764～1781)の頃、杉田の梅は、金沢探勝のルートとして加えられるようになり、文化～文政(1804～1830)の頃には江戸近郊の名所として文人墨客が訪れ、佐藤一斎の『杉田村観梅記』、清水浜臣『杉田日記』が出版されてからは一躍有名になりました。観梅客は海路・陸路から訪れ、熊野神社境内の高台は梅見の場所として知られました。ことに妙法寺境内は名木が多く梅林の中心でした。境内には熊野神社とともに梅を詠んだ句碑が建っています。

4. 霊桐山(れいとうざん)東漸實際禅寺(とうぜんじっさいぜんじ)

磯子区杉田 1 - 9 - 1

宗 旨：臨済宗 宗 派：建長寺派

本 尊：釈迦如来

創建年：正安^{しょうあん}3年(1301) 開 山：桃溪^{とうけい}徳悟 開 基：北条宗長

① 梵鐘「永仁の鐘」：国指定重要文化財

銘文によると、永仁6年(1298)当時に住んでいた僧了欽が序文及び銘をつくり、当時の名工物部国光に造らせました。金沢区称名寺の梵鐘と同形・同法量です。 総高127cm、口径70.6cm

② 仏殿(釈迦堂)：県指定重要文化財

^{りょうはい}梁牌により正安3年(1301)に円覚寺の永仁再興に当たった桃溪^{とうけい}徳悟(宏覚禅師)が、北条義時の次子名越^{なごえ}朝時の曾孫宗長を大檀那として建立しました。その後の改修により、当初の部材はあまり残っていないが、^{ぜんしゅうようほうさんげん も こしつき}「禅宗様方三間裳階付仏殿」と呼ばれる仏教建築で、創建年代の明確なものでは、日本最古の建造物です。

③ 五輪塔：県指定重要文化財

鎌倉時代後期のものと思われる。凝灰岩で造られたが、比較的風化が少ない。3基ある。

④ 木造薬師如来坐像：県指定重要文化財

元東漸寺塔頭東光庵の本尊 座高87.4cm

⑤ 木造伽藍神倚像一軀：市指定有形文化財（彫刻）

伽藍神は土地神とも呼ばれ、寺院の建物を守る神として中国で信仰が育ち、わが国では鎌倉時代以降、主に禅宗が尊び、像を土地堂に祀ることが広く行われました。

この像は高い冠をかぶり、厚い衣装を着て坐っています。像のなかの墨書の銘文から、応永2年(1395)に院覚(いんがく)という仏師が作ったことがわかります。彫刻の技法はやや形式化していますが、作られた時期や作者が明確な資料的価値の高い作品で、室町時代初期の作風をよく伝えています。寄木造 玉眼 像高58.2cm

⑥ 木造達磨大師坐像一軀：市指定有形文化財（彫刻）

この像は両手を法衣で覆い、頭巾をかぶっています。像のなかの墨書の銘文から、応永2年(1395)に院覚(いんがく)という仏師が作ったことがわかります。

禅宗の始祖である達磨大師の彫像は横浜市内にも少なくありませんが、造立時期と作者が明確な中世の作品は珍しく、資料的価値が極めて高い佳作で、室町時代初期の作風をよく伝えています。

寄木造 玉眼 像高36.8cm

⑦ 東漸寺詩板：市指定有形文化財

根岸湾が埋め立てられる前は、東京湾に面した東向きの寺で、釈迦堂から総門を通して海浜を見通せ、斜め後方に屏風ヶ浦の崖が見渡せました。この景勝は鎌倉時代、多くの鎌倉五山の禅の^{げじゅ}偈頌に謳われ、東漸寺詩板(2枚)に残されています。日本二大詩板の一つと言われているが、他の一つは調べても分かりませんでした。

なお、^{げじゅ}偈頌は偈と同じで、経文で仏徳をたたえ、または教理を説く詩。多くは四句からなる。また、詩板の詳細は省きましたが、詩から、鎌倉から杉田まで馬で半日の行程だったことなどが分かるそうです。

5. 峯の灸・円海山清浄院護念寺 磯子区峰町 5 - 3 - 1

宗 旨：浄土宗

本 尊：阿弥陀如来

歴 史：

天明2年(1782)の梵鐘の銘には「武州久良岐郡峯村阿弥陀寺奥の院は、清浄を院とし円海を山と名づく」とあり、当初は阿弥陀寺の奥の院として開創したことがうかがえる。

新編武蔵国風土記稿によると、阿弥陀寺はこの付近にあった御念寺という古い寺を引き継いで草創したとある。

阿弥陀寺の14世の法雲は奥の院を建立しようと、領主の星合治兵衛具久に相談を持ちかけた。浄土宗を信仰し、法雲に帰依していた具久は、宝暦2年(1752)に長野山の土地約10町歩を寄進した。法雲は山道を拓いて土地を整備し、阿弥陀寺奥の院を完成させた。長野山の山頂からは3方に海、北は都筑や橘の低い山がさざ波のように連なる様子が一望でき、いつしか円海山と呼ばれるようになった。

法雲と具久は南向きの本堂と明王殿を建て、法雲の師である浄誉が薩摩藩主島津継豊の継室の竹姫から賜った大威徳明王像と脇仏多聞天、船霊を祀った。寺の名を円海清浄院護念寺と名付け、浄誉を開山とし法雲は2世になった。開創時期は明和8年(1771)と推測される。円海上人と呼ばれた浄誉は翌年入寂。その後山門、庫裡、開山堂、鐘楼などが建てられた。

6世の円明の頃には峯の灸が盛んになり、来訪者の増加に合わせて本堂の改築が行われたが、円明は上棟を目前に控えた文久2年(1862)に入寂した。

大正6年(1917)、火災に見舞われ鐘楼以外の堂宇は全て消失した。大威徳明王像と本尊の阿弥陀如来像は池に投げ込まれ、難を逃れた。現在の庫裡は、火災後の仮本堂として建てられたものである。新たな本堂は昭和4年(1929)より、千葉県木更津市の屋敷にあったケヤキの巨木で建てられ、昭和7年(1932年)に完成した。同年には県道が開通し、杉田駅から本院近くまで相武自動車の路線バスが運行されるようになり、参拝

者の利便性は向上した。

横浜南郊の広大な緑地は、護念寺の敷地になったことにより、開発の手から免れ、保全されてきたのである。

大威徳明王：

密教特有の尊格である明王の一尊。5大明王のなかで西方の守護者とされる。日本では、六面六臂六脚で、神の使いである水牛にまたがっている姿で表現されているのが一般的である。

ちなみに、密教で、中央が不動明王、東方が降三世明王、南方が軍荼利明王、北方が金剛夜叉明王である。

峯の灸：

文化15年(1818)に当寺に入山した5代萬随は、ある夜、大威徳明王が夢枕に立ち「靈灸で人々を救済せよ」とお告げをした。萬随は45年の在職の間に関東一円や甲斐国、伊豆国などへ行脚し、布教の傍ら灸を施術して回った。墓石には、60万人余りに施術したと記されている。

やがて、比較的近くの人々は行脚を待つだけではなく、護念寺を訪れるようになった。江戸からは東海道の程ヶ谷から井戸ヶ谷、弘明寺、田中を通る「円海山道」を歩いて多くの人が訪れた。

峯の灸が盛んだった頃には境内に2件の茶屋があり、寿司や玉子、おでん、酒などが売られていた。江戸時代の古典落語の演目『強情灸』では、熱さに耐えたと言い張る登場人物の張り合いがコミカルに描かれている。

峯の灸は「打膿灸^{だのう}」と呼ばれるタイプで、小指の先ほどのもぐさを皮膚に直接載せて点火し、燃え尽きさせるものである。これを1日、5回から7回ほど繰り返す。

落語『強情灸』：

元々は上方落語の『やとい丁稚』。得意としていたのは8代目三笑亭可楽や5代目古今亭志ん生、古今亭志ん朝父子、5代目柳家小さん。

本来は幾度かに分けて据える灸を、一度に山盛りにして据え、脂汗をかきながら、油で茹でられた石川五右衛門などを例にあげてやせ我慢して唸っている友に意地悪く「五右衛門はどうしたった？」と聞く友に「……さぞ熱かったろう」と応える。

このサゲ以外もあるようです。

6. 海向山岩松寺金蔵院(こんぞういん)安産子育観音

磯子区磯子4-3-6

宗 旨：真言宗 宗派：高野山派

本 尊：薬師如来 中興年：嘉^{かりやく}暦 3年(1328)

中 興：里空

別 称：磯子観音

【磯子観音】（境内掲示より）

本 尊：如意輪観世音菩薩

縁 日：毎月19日午後3時より護摩修法

（但し、御開帳は正月、5月、9月のみ）

由 来：当観音様は北条泰時公(1183~1242)の御内室の念持仏で北条氏滅後、幾多の変遷を経て比企宗因が当地に草庵を興じ、安置したといわれています。

以来、福德無量の如意宝珠をもって家内安全、息災延命、厄除招福、交通安全、諸願成就、如意円満の祈願所となっています。特に安産子育の観音様として広く信仰され「お腹帯」の授与が行われています。

また、新四国八十八ヶ所霊場四十八番で十一面観音を、磯子七福神として、弁財天をお祀りしています。

現在の御堂は、群馬県の妙義神社の護摩堂を昭和49年に移築したもので、安永8年(1779)の棟札のある建物です。

※いろいろなものから引用していますので、文体はまちまちです。